

人権啓発資料 /

ふれあい

2023

「誰か」のことじゃない。

人権週間中(12/4～10)に、法務省が人権教育・啓発のためにキャッチコピーを出しているのですが、みなさん知っていますか？

様々な人権課題が依然として存在していますが、これらは決して、自分以外の「誰かのこと」、「自分には関係のないこと」ではありません。

人権問題を自分や自分の身近な人の問題として捉え、互いに人権を尊重し合うことの大切さを認識し、他人の人権にも配慮した行動をとることができるよう、法務省では『「誰か」のことじゃない。』を啓発活動重点目標に掲げて、活動を展開しています。



第75回 **人権週間**
12月4日～10日

12月10日は
人権デー

「誰か」のことじゃない。

人権啓発動画を法務省ホームページにて公開中！

法務局では、人権侵害による被害を受けた方を救済するための活動を行っています。

みんなの人権110番

0120-007-110
0570-070-810
0570-090-911

LINEじんけん相談 @snsjinkensoudan

<https://www.jinken.go.jp/> (パソコン・スマートフォン・携帯電話共通)

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会

(出典：法務省人権擁護局)



美浜町人権尊重啓発協議会

きしぼじん 鬼子母神

昔あるところに、のどかな村がありました。
ところがある日、その村に子どもをさらう鬼女おにおんなが現れるようになりました。子どもたちの元気な声でにぎわっていた村は、子どもがひとりもないさびしい村になりました。困った村人たちは、お釈迦様しゃかさまに子どもたちを取り返してくれるようお願いしました。

さっそくお釈迦さまは、鬼女の住む穴に様子を見に行きました。鬼女には鬼女の子どもが一人もいて、一人一人をととても大切にかわいがっていました。しかし、隣の穴には村からさらってきた子どもたちが投げ込まれていて、みんな泣いていました。その様子に怒ったお釈迦様は、鬼女の子どもをひとり手のひらに乗せて連れ帰りました。

やがて鬼女は自分の子どもがひとりいないことに気がつき、あたりを狂ったように探し回りました。どうしても子どもが見つからない鬼女は悲しみに暮れていました。そこへお釈迦様が現れ「お前には一人も子どもがいるのに、一人でもいなくなるとそんなに悲しいのか？それは人間の親たちも同じではないのか？」とさとししました。

涙を流して反省した鬼女は、さらってきた子どもたちを全員村に返しました。その後、鬼女はお釈迦様の弟子になり、鬼子母神という安産と子供を病気から守る神様になりました。



こうがい 「香害」という言葉を聞いたことはありますか？

香害とは、合成洗剤や柔軟剤、化粧品類などに含まれる合成香料（化学物質）によってさまざまな健康被害が誘発されることをいいます。近年では、この香害が原因となって、化学物質過敏症を発症する人もいます。

テレビでは、香りのよさや消臭成分を強調した洗剤や柔軟剤のCMが多く流れています。実際に、自分の気に入った香りの柔軟剤等を使用する方々も増えてきています。しかし、一方で合成香料等の香りに悩まされている方や化学物質過敏症に苦しんでいる方がいることも忘れてはなりません。



(出典：消費者庁ウェブサイト)

「他人事」と思う要因とは・・・？

- ◇ 自分とは関係のない別世界のことで考え無関心である
 - ◇ 「自分は差別やいじめなどする人間でない」と思い込みそれ以上深く考えない
 - ◇ 「触らぬ神にたたりなし」というように関わることを避ける
 - ◇ 「自分がいつ人権侵害の被害者になるかもしれない」ということが想像しにくい
- など



「マイクロアグレッション」とは？



無意識の偏見や思い込みが言葉や態度に現れ、否定的なメッセージとなって伝わり、意図せず誰かを傷つけてしまうことを「マイクロアグレッション」と言います。多くは日常の中の些細な言動であり「自覚なき差別」とも言われています。

外国人のような見た目の人に
「日本語が上手ですね。」
(日本語が下手だと思い込んでいる)

女性に対して
「スイーツ好きだよね。」
(女性は甘いものが好きだと思っている)

身体が大きい人に
「ご飯、それだけの量で足りるの？」
(体が大きい人は大食漢だと思っている)

「高齢者にITは難しいよね。」
「新入社員にしてはいいこと言うね。」



マイクロアグレッションは、相手を傷つける意図がない場合も多く、むしろ善意や励ましのつもりで言っていることもあります。

だからこそ受けた人は、怒りづらく、思い悩むことがあります。



どうすればいいのか

差別的発言をしていないか常に意識しながらコミュニケーションをとることは難しいけれど、自分が言ったあの言葉が嫌ではなかったか、私が言われたこの言葉に傷ついた、などの話ができるような環境・関係作りが大切ではないでしょうか。

その投稿 大丈夫？

インターネットやスマートフォンが普及して、それにより自分の意見をSNS等で気軽に投稿できるようになりました。

その一方で、何気ない発信が相手を傷つけてしまうこともあります。

「噂のお店、思ったより大したことなかったな…」
→思いがけずお店の評価が下がってしまうことがある

「倍率の高いコンサートのチケットが当たった！」
→買えなかった人が自慢されていると感ずる場合がある

「〇〇さんって、××に似てるよね。」
→そう思わないときにショックを受けることがある



ネットによる誹謗中傷の被害件数(2022年)は、2,152件(総務省参照)です。簡単にできてしまうSNSでの発信が、自分自身そして相手の人生を大きく狂わせてしまう可能性を誰もが持っています。

意見を発信する前に、知らずに相手を傷つけてしまうような内容になっていないか、読んだ人がどう感じるかなど、今一度確認して発信するようにしましょう。

「子どもを見守り20年」(大藪区子ども見守り隊)

◇設立 平成17年 ◇現在の会員数 12名

長年にわたり、大藪区として児童の登下校の見守りができる方を募り、ボランティア団体として組織されている。隊員が当番制で毎日の児童の登下校時刻になると大藪区内の交差点に立ち、子どもたちに声をかけ、見守りをを行っている。

地域のボランティアの方々が積極的に子どもたちに関わることによって、子どもたちが安心感をもって登下校できるだけでなく、地域の方々に大切にされているという感謝の気持ちも生まれ、地域愛を育むきっかけにもなっている。



【浅妻郁子さんへのインタビューより】

設立のきっかけは、平成17年当時、民生児童委員を務めていた浅妻郁子さんが、大藪区のご協力のもと、老人会や各団体に呼びかけを行ったことが始まりだった。声をかけた皆に快諾していただき、大藪区子ども見守り隊が結成され、活動が始まった。

当時老人会会長の山本孫之丞さん、老人会のメンバーが中心となって率先して見守り活動を行っていた。タスキや腕章を美浜町からいただいたことも記憶している。歴代の民生児童委員さんがメンバーづくりの窓口となり、声掛けをしてくださってきたお陰もあり、お孫さんが卒業された後も見守り隊を続けてくださっている方がおられたり、新しく入ってくださる方がおられたりして、この活動が今も引き継がれてきている。損得勘定なく、何か皆の役に立ちたいと考えてくださっている方が多く、本当にありがたい。

昔は郵便局の前に公衆電話があり、子どもだけでも助けを呼べたが、今は撤去された。旧道の金山と大藪の間の十字路が一番危険な場所なので、そこがポイントだったが、見守る人がいてとても安心だった。お孫さんが小学校に通う6年間と言わず、その後もずっと続けてくださっている人が多いことや、お孫さんが地区外におられる方も会員になってくださっていることが本当にうれしい。



ボーダーレス
Borderlessな競技 ブレイクダンス

ブレイクダンスは2024年パリオリンピックの正式種目に採用され、世界的に注目と人気が高まっている競技で、もとはニューヨークのギャングたちによる、「殺し合いをせずに音楽で勝負する」という考えから生まれたダンスです。

年齢や障がい等で線引きしてしまう競技が多い中、障がい・性・世代・言語・国籍に違いがあっても同じ舞台、同じルールで戦うボーダーレスな競技です。



【他人と違う、が武器になる！】

この競技では、いかに会場を盛り上げるか、いかに音楽に乗れているかが勝敗をわけます。そのため誰にも出来ない動きは会場を盛り上げる強力な武器となります。身体的特徴はそれ自体がオリジナリティ！身体障がいを持った世界トップクラスのダンサーは何人もいます。また、60歳から始めて有名になったダンサーもあり、始めるのに遅すぎることはありません。誰にでも広く門戸が開かれた競技、それがブレイクダンスです。

あちらとこちらでボーダーを引かず、一度踊ってみるのはいかがでしょうか？

●ILL- Abilities (イルアビリティーズ)

多国籍の障害者8人組で構成されたブレイクダンスチーム

「No Excuses, No Limits (限界なし、言い訳なし)」をモットーに掲げ、アメリカ・ブラジル・チリ・オランダ・韓国などさまざまな国籍のメンバーによるブレイクダンスチーム。



●70代のブレイクダンサー
天野 義廣 (あまの よしひろ)

福井県勝山市出身の元高校教師。60歳からブレイクダンスを始めた現役のブレイクダンサー。

ひとごと
戦争って他人事？

子どもにどう答える？



○△病院が空爆により破壊され…

毎日のように報道される戦争。子どもに「なぜ毎日、同じニュース？」と質問されたら…。



あなたは逃げられる？

ミサイルが飛んできます。地下または丈夫な建物に避難してください。

それって、どこ？
シミュレーションが必要です。



国を出たいわけじゃない…

日本では認定されにくい…

世界中で増え続ける難民。日本の昨年度の難民申請数は一万人を超えました。しかし、認定されたのはわずか202人でした。



値上げラッシュ！

世界の物流が滞り、燃料、食料品をはじめ、物価高が止まりません。



身近な体験者から…

今こそ戦争体験者のお話を聞きたいものです。

女学校時代に、敦賀の軍需工場で爆撃にあって、私はたまたま大きい機械の陰にいたから助かったんや。



美しい雨の島に…

新たな軍事拠点できました。



石垣島駐屯地開設
2023年3月 7



みんなの笑顔が
MIHAMA
かがやく美浜